令和７年度学校運営協議会設置通知書交付式・学校運営協議会委員委嘱状交付式
及び第１回学校運営協議会

日　時：令和７年５月１６日（金）１０：００～１２：３０
場　所：山梨県立ひばりが丘高等学校　総合実践室

（１）学校運営協議会設置通知書交付式・学校運営協議会委員委嘱状交付式
（司会：学校運営協議会　担当指導主事）

① 開式の言葉（司会）
② 県教育委員会あいさつ
③ 県教育委員会職員紹介
④ 学校運営協議会設置通知書交付
⑤ 学校運営協議会委員委嘱状交付
⑥ 閉式の言葉（司会）

（２）第１回学校運営協議会
（司会：教頭）

① 開会の言葉（司会）
② 学校長あいさつ
③ 学校運営協議会委員自己紹介
④ 学校運営協議会の運営等に関する要綱について
⑤ 学校運営協議会会長及び副会長選出
⑥ 会長・副会長あいさつ
⑦ 協議（議長：会長）
　ア 令和７年度学校運営基本方針について（校長）
　イ 学校評価報告書について（副校長）
　ウ いじめ防止基本方針について（副校長）
　エ その他
⑧連絡事項
　ア 令和７年度年間行事予定について（教務）
　イ 学校概要および学習指導について（教務）
　ウ 生徒指導について（生徒指導）
　エ 進路指導について（進路指導）
　オ 教育相談について（保健相談）
　カ 生徒会活動について（生徒会）
　キ 通級による指導について（通級）
　ク その他

（３）意見交換
（４）閉会の言葉（司会）

※ 今後の予定
第２回学校運営協議会　７月１６日（水）
第３回学校運営協議会　８月２８日（木）
第４回学校運営協議会　１月３０日（金）

＊第１回学校運営協議会出席者

●学校運営協議会委員（順不同）

元ひばりが丘高校校長	内田　大介	様
下宿連合自治会長	矢﨑　政美	様
都留文科大学特任教授	佐藤　比呂二	様
富士吉田市立明見中学校校長	加々美竜也	様
富士吉田市立教育研修所所長	林　龍樹	様
富士吉田商工会議所直前会長	赤池　優樹	様
富士吉田市社会福祉協議会事務局長	白須　美行	様
ひばりが丘高校ＰＴＡ会長	藤江　康弘	様
ひばりが丘高校校長	小林　久美	
ひばりが丘高校進路指導主事	坂本　洋子	

●本校関係者（上記の委員を除く）

副校長　教頭　事務長　教務主任　生徒指導主事
保健主事　生徒会主任　通級リーダー

＊第２回学校運営協議会　令和７年７月１６日（水）１０：００～１２：３０
・今回、別紙にてご案内しております。

校訓

自　主　自　律

自分の判断で、規範に従って行動すること

スクールミッション

富士・東部地域唯一の二部制（昼間部・夜間部）の定時制高校として、
基礎学力の確実な定着を図り、自分に誇りを持ち困難に打ち勝つ力を育成し、
社会人として自立し役割を担える資質を向上させ、毎日をいきいきと学び、
自己を磨くことができる学校を目指します。

スクールポリシー

①グラデュエーション・ポリシー（育成を目指す資質・能力に関する方針）

〇自主的自律的な生徒の育成

・自己肯定感・自己有用感の育成

・心身の健康の保持増進

・基本的生活習慣の確立と規範意識の向上

・社会性や公共性・道徳心の習得

②カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成及び実施に関する方針）

〇ICT環境等を活用した学習支援や、授業のユニバーサルデザイン化を充実させることで、１人１人を大切にした教育活動を展開

〇「ひばりのドリカムプラン」（体験活動・創作授業等）による自己肯定感・有用感の育成

〇地域の特産品である「吉田のうどん」を教育課程の中に位置づけ、全国的にも有名な「うどん部」の活動内容を学ぶことで、地域理解と実践的な学習活動を推進

〇通級授業の開設

・ソーシャルスキルトレーニングを取り入れた自立活動の授業を開設

〇3年間での卒業も可能とする教育課程の編成

〇個に応じた学習を充実させるため幅広い講座を開講

・課題研究、地域探求、観光ビジネスなど、特色ある授業や基礎から学べる授業の開講

・学年で決まった授業ではなく、個々の生徒が興味関心や進路実現に適した講座を選択可能

〇普通科と情報経理科の乗り入れ可能

・普通科の生徒が情報経理科の授業を、情報経理科の生徒が普通科の授業を受講可能に

③アドミッション・ポリシー（入学者の受け入れに関する方針）

〇学校説明会等に参加し、単位制定時制高校の単位取得方法や学校生活の規則など「ひばりが丘高校」を良く理解した生徒

〇努力して卒業しようという決意がある生徒

■■■　令和7年度の指導重点　■■■

1　自主的・自律的な生徒の育成

①　生徒に寄り添い、個々の生徒の長所を引き出し、育てる指導により、自主的自律的な態度の育成に努める。

②　部活動や委員会活動などの生徒主体の活動を活性化することにより、自主的自律的な態度の育成に努める。

2　自己肯定感・自己有用感の育成

③　基礎基本を大切にした授業や授業の**ユニバーサルデザイン化**、**AI ドリル**による個に応じた学習支援等により、学習意欲を喚起し、学力向上に努める。

④　**授業内容・評価規準の明確化**、**主体的で対話的な深い学び**の実践等により、達成感・充実感を味わうことで学習意欲を喚起し、学力向上に努める。

⑤　総合的な探究の時間における**キャリア教育や探究活動等**により、自らの在り方、生き方、地域をとりまく課題を考えることにより、社会を生き抜く力や課題を解決する力の育成に努める。

⑥　**「創作授業」や「吉田のうどんづくり」**、**「花・野菜づくり」等の体験的な学習や集団活動**により、自己肯定感・自己有用感の醸成や自己実現に努める。

⑦　**「表現の時間」**、**「読書活動の時間」や「校外学習」等**により、自己を表現したり、他者の言葉に耳を傾けたり、社会に目を向けたりすることで、自分らしい生き方を追求する態度の育成に努める。

3　基本的生活習慣の確立及び心身の健康の保持増進

⑧　日常の声かけやホームルームでの生活指導等により、健康的な生活習慣の確立に努める。

⑨　日常の健康観察やカウンセリング、**「通級による指導」等**により、心身の健康の保持増進や自己理解、コミュニケーション力の向上に努める。

4　規範意識や社会性、公共心や思いやりの心の育成

⑩　**日常の挨拶や対話等**により、規範意識や道徳心の向上に努めるとともに、いじめを生み出さない望ましい人間関係や社会性・協調性の育成に努める。

⑪　**日常の清掃やボランティア活動等**により、協力と奉仕のできる責任感や公共心、他人を思いやる豊かな心の育成に努める。

社会で自立できる力の育成に主眼をおいたキャリア教育プラン

「ひばりのドリカムプラン」

自己肯定感・自己有用感の涵養	継続性・粘り強さの養成	人との関わり方の養成	就労意識・社会貢献意識の醸成
•自己内対話(自己理解) •学力向上・ものづくり（達成感） ①	•学習や探究活動などへの継続的な取り組み ②	•集団活動・外部との交流 ③	•職場見学・職業体験・ボランティア学習体験 ④

	取り組み		1年次	2年次	3年次	4年次
教務	AIドリル ①②		令和4年度より、生徒は一人一台端末を購入している。学校でも家庭でも利用できるAIドリル「すらら」(オンライン教材)により、授業や朝学習、家庭学習、長期休業中の学習に利用し、学び直しや基礎学力の定着、学力向上に繋げる。「すらら」は小学校から高校までの学習を自分の力やペースに応じて学習できる。また、端末活用の機会を増やし、活用能力の向上にも繋げる。			
	読書活動の時間 ②		本離れ、活字離れが日常化している生徒に、図書館で**読書の時間**を設け、読書への関心意欲を向上させる。また、自分が選んだ本をクラスメートに口頭で紹介することで、コミュニケーション能力を養う機会を設け、キャリア教育(面接)につながる活動を目指す。			
生徒指導	表現の時間 ①		**書く活動**を通じて、 自分の気持ちや考えを他者に伝える力を育む。また、その活動を通じて、自分を表現するための材料を生徒自身が手に入れられるようにする。			
進路	総合的な探究の時間	目標	1自分を知る 2他人を理解する	1共同体の中で考える 2集団行動できる	1共同体の中で生きる 2共同体の中で自分の力を発揮する	1共同体の中で生きる 2社会貢献を意識する
		探究	うどん探究 ②③ 職業調べ ②④	地域探究 ②③	自己探究 ①② 郷土学習 ②③	自己探究 ①②
		体験	フラワーアレンジメント ③	花・野菜作り ③	ジョブカフェ(コミュニケーション) ③④	ジョブカフェ(面接・着こなし) ③④
		講演	SDGｓ学習（社会人の話） ③④	SDGs 学習（社会人の話） ③④	SDGs学習 ボランティアについて考える、働くことについて考える ③④	労働委員会講座 ハローワーク講座 ①④
	インターンシップ ③④		生徒が**地域産業の現場を体験**することを通して地元企業についての理解を深め地域の一員として果たす役割を自覚する。また、仕事内容、自らの適性、職場での人間関係などについての理解を深め、働くことに対する意欲や職業人として望ましい職業観を養い、自らの職業選択の一助とする。			
生徒会	創作授業	目標	個で作品を完成し、達成感を味わう		集団で協力し出来上がった作品が、 他人のためになる喜びを味わう	集団で 協力して完成した作品が、公共のためになる喜びを味わう
		種目	切り絵・革細工・陶芸・絵画・絵手紙・本づくり・刻字・染め物 ①②③④		刻字 ①②③④	木工 ①②③④
			校内発表会にて展示→教育祭出展			
環境防災	愛校作業 避難訓練		通常の清掃分担ではない場所を重点的に行い、協力と奉仕のできる公共心を養う。 防災に関する正しい知識を持ち、 災害時に適切な行動をする。			
保健相談	通級による指導 ①③		学習・生活上の困難さを改善・克服することを目標とし、コミュニケーションにおける行動特性、困難な場面における最善の方法を知る。また、就労を見据え働くためのスキルを身につける。			
年次（管理職）	校外学習	目的	地域文化の理解や卒業後の就労への意識を高めるため、年次毎に県内あるいは**県外の文化施設や企業などを訪問**し、見学や体験活動を行う。			
		内容 ①③④	企業見学、食品加工体験	文化施設見学	SDGs学習	史跡見学、食品加工体験

いじめ防止基本方針　山梨県立ひばりが丘高等学校

1　いじめの未然防止

①　生徒や学級の様子を知る　　②「居場所づくり」、「絆づくり」と「自己有用感」

③　命や人権を尊重し豊かな心を育てる　④　保護者や地域への働きかけ

2　早期発見（教職員のいじめに気づく力を高める）

①　生徒の立場に立つ

②　生徒を共感的に理解する

・早期発見のための手だて

○　日々の観察　○　日誌等の活用　　○　相談体制の充実

○　いじめ実態調査（アンケート調査等）の実施　○スクールサポーターとの情報交換

○　学校警察連絡協議会等の場において認識の共有

・相談しやすい環境をつくる

○　いじめられている本人からの訴えに対して　○　周りの生徒からの訴えに対して

○　保護者からの訴えに対して

3　いじめ発見時の緊急対応

①　いじめられた生徒・いじめを知らせてくれた生徒たちを守る

②　事実確認と情報の共有

4　ネット上のいじめ

パソコンや携帯電話・スマートフォンを利用して、特定の子どもの悪口や誹謗中傷等をインターネット上のＷｅｂサイトの掲示板などに書き込んだり、メールを送ったりするなどの方法で行われる。

○　未然防止　　情報モラルの指導　　保護者会等で伝える

○　早期発見　　小さな変化に気づく

○　書き込みや画像の削除　　関係機関と連携して対応

5　重大事態発生時の対応

①　学校長から、教育委員会（高校教育課長）へ重大事態の発生を報告

（→教育委員会から知事に報告）

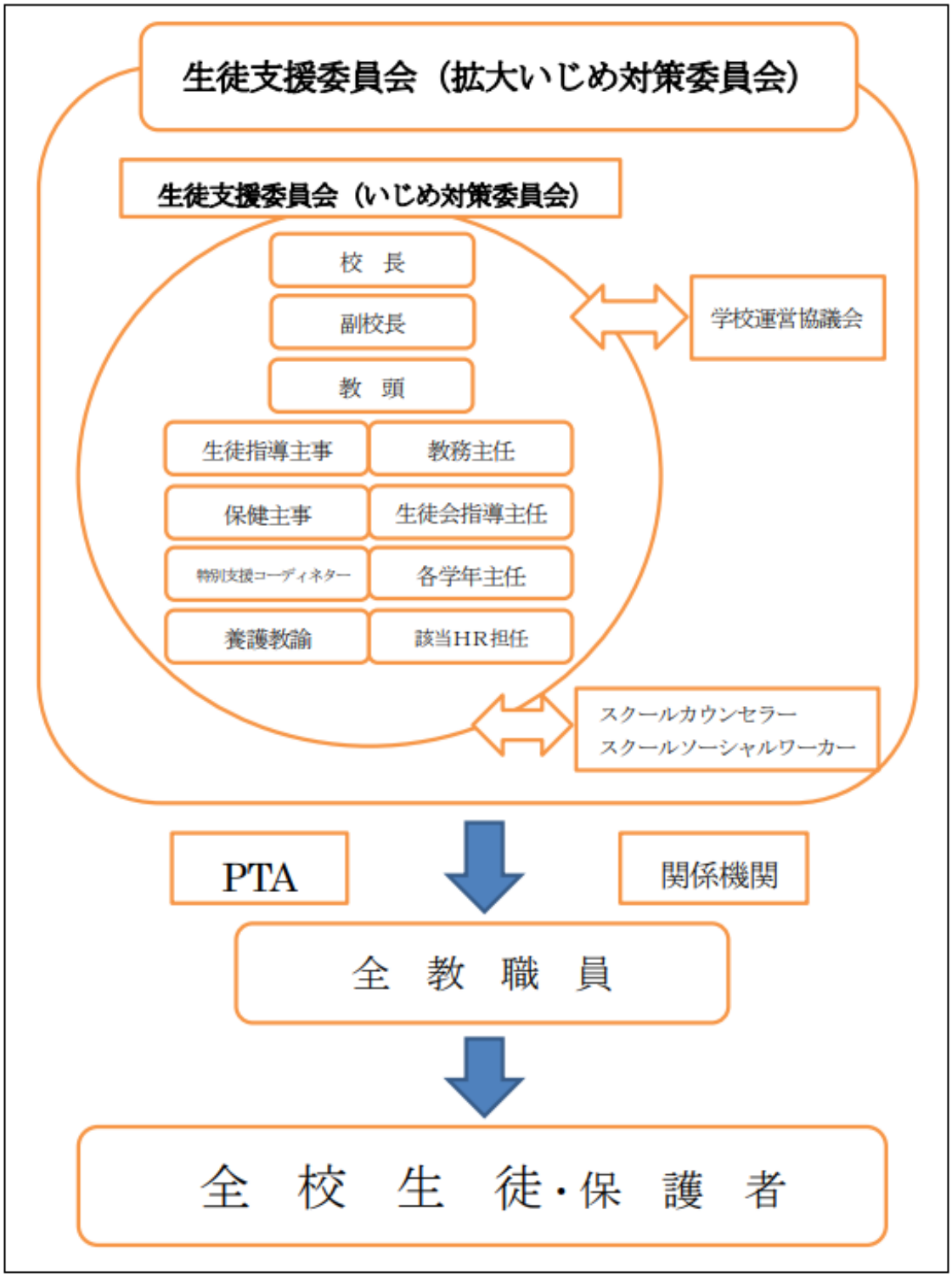
また警察に対しても相談、通報

②　教育委員会が主体となって、重大事態の調査を行う

③　調査結果の報告　（いじめられた生徒･その保護者、県教育委員会へ）

④　いじめられた生徒又はその保護者が希望する場合には、「いじめられた生徒又はその保護者の所見」をまとめた文書を調査結果に添える

【いじめ防止のための学校の体制】



様式1 令和6年度　山梨県立ひばりが丘高等学校評価報告書（自己評価・学校関係者評価）

学校目標・経営方針	自分に誇りを持ち自己を磨き、毎日を生き生きと学ぶ生徒。自分を見つめ困難に打ち克つ生徒。社会人として自立し役割を担うことのできる生徒の育成。

山梨県立ひばりが丘高等学校校長　　上村　泰子

本年度の重点目標	
	1　自主的・自律的な生徒の育成
	2　自己肯定感・自己有用感の育成
	3　心身の健康の保持増進及び基本的生活習慣の確立と規範意識の向上
	4　社会性や公共性・道徳心の習得

達成度		
	A	ほぼ達成できた。（8割以上）
	B	概ね達成できた。（6割以上）
	C	不十分である。（4割以上）
	D	達成できなかった。（4割以下）

評価		
	4	良くできている。
	3	できている。
	2	あまりできていない。
	1	できていない。

自　己　評　価							学校関係者評価	
本年度の重点目標				年度末評価（2月1日現在）			実施日　（令和7年2月28日）	
番号	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	自己評価結果	達成度	成果と次年度への課題・改善策	評価	意見・要望等
1	自主的・自律的な生徒の育成	生徒に寄り添い、「創作授業」や「表現の時間」等により、個々の生徒の長所を引き出し、育てる指導により、自主的自律的な態度の育成に努める。 部活動や委員会活動等の生徒主体の活動を活性化することにより、自主的自律的な態度の育成に努める。	学校評価アンケート 学校評価アンケート	・生徒に寄り添い、個々の長所を引き出し育てる指導は9割以上が肯定的に回答した。また生徒からの回答も8割を超えていた。 ・部活動や委員会活動等の生徒主体の活動を活性化する指導は8割が肯定的に回答した。	B	・寄り添う指導は多くの教師が達成できているが、部活動や委員会活動等の生徒が主体的に活動できる環境づくりや支援にはまだ改善すべき点がある。	4	・学校見学や委員会での報告から、先生方が生徒に丁寧に寄り添おうとする志の高さを感じ、それが実を結んでいることを実感しています。ただ、寄り添えたかどうかを決めるのは生徒の側です。先生方の9割以上が肯定的な回答というのは素晴らしいことですが、生徒の回答が下回っている点は心に留め、引き続き、きめ細かなご指導をお願いいたしたく思います。 ・自己評価90%以上、生徒・保護者80%以上の肯定的な回答もあり、授業見学の様子からも学校の具体的な方策は良い結果につながっていると考える。 ・より高い達成度に向けてだと考えられるが、改善点があるとの自己評価があるので、具体的な改善策を明確にし、さらに上を目指して全職員で取り組んでいただきたい。 ・生徒の特性上、全員が自主的に特別教育活動に積極的に取り組むことは困難な場面があるかもしれないが、一部の活動については教職員の後押しで成果が上がっている。自己肯定感の醸成は自主性・自律を醸成するために、最も大切な要素である。こうした地道な活動の効果が、学校教育活動全体に波及することを望みます。 ・概ね達成できている、と感じている。何回か見させて頂いた授業参観での生徒たちの様子は、各自が自分の課題を把握し、それに向かい自分のペースで、自主的に取り組む生徒たちの様子が感じられた。より一層正確な評価の判断を必要とするのならば、学校評議員が授業参加だけでは無く、学校生活の色々な場面で生徒たちの活動の様子を見取っていく必要がある。例えば、行事、部活動、委員会活動、学級活動、など。
2	自己肯定感・自己有用感の育成	AIドリルによる個に応じた学習支援や授業のユニバーサルデザイン化を図る。また、主体的で対話的な深い学びの実践等により、学習意欲を喚起して学力向上に努める。 総合的な探究の時間における体験的な学習や集団活動により、社会を生き抜く力や課題を解決する力の育成に努めると共に、「創作授業」や「表現の時間」等により、自己肯定感・自己有用感の醸成や自己実現に努める。 「表現の時間」「読書活動の時間」「校外学習」等により、他者の言葉に耳を傾け、社会に目を向けることで、自分らしい生き方を追求する態度の育成に努める。	授業観察・学校評価アンケート・授業アンケート・基礎学力診断テスト 学校評価アンケート 学校評価アンケート	・個に応じた学習支援や授業のUD化についてはほぼ全ての教師が肯定的な回答をしている。 ・体験的な学習や創作授業、表現の授業などの機会を活用し、生徒の自己肯定感・自己有用感を育成する指導に対しては、9割以上が肯定的に回答した。 ・社会に目を向け、自分らしい生き方を追求する態度の育成については、9割が肯定的に回答した。	A	・AIドリルによる個に応じた学習支援や学習意欲を喚起するような支援について、生徒の否定的な回答が2割程度まで増えたことを考慮し、分かる授業づくりや主体的で対話的な深い学びになるような学習指導を目指す。 ・総合的な探究の時間や特別活動を活用して体験的な学びを充実させることが生徒の自己肯定感や自己有用感、達成感につながるため、継続的に教育活動に取り入れていきたい。さらに地域の力を活用し、社会を生き抜く力をつけられるように学びをさらに発展させたい。	4	・個に応じた学習保障のためのAIドリルを来年度から授業として開講するにあたり、生徒からの否定的な意見に耳を傾け、学習が二極化しないようご配慮願います。剥那的な「できた達成感」より、長続きする「わかる達成感」を大切にしていただきたいと思います。自己肯定感について、生徒が「先生たちに大切にしてもらえた」と実感できる貴校の取り組みは素晴らしいと思います。 ・自己評価において高評価であり、授業の様子を見ても、生徒が自分のペースで学び、理解している様子が見られた。日々の教育活動の中で、生徒と教師の信頼関係のもと生徒が安心して学校生活を送り、自己肯定感や自己有用感が育成されていることが伝わってきた。 ・教育課程外ではあると思うが、部活動等の成果もあり、自己肯定感や自己有用感が育成されていると感じた。 ・授業見学を通して、ICTの活用や、きめ細やかな少人数制の授業により、学び直しの学習が確実に行われている。『できないこと』が『できた』に進化したときに、より確かな動機付けに繋がると考えます。教員定数を確保し、本講の特色ある授業を継続してください。 ・各先生方の達成感を感じて、この項目がすべての項目の中で、一番成果が上がっていると感じる。生徒が総合や特活の時間に体験的な活動に取り組むことによって、自己肯定感や自己有用感、達成感に繋がっている、と多くが評価していることが一番の要因だと思う。今後は、学校内だけでは無く、地域との繋がりを考慮しつつ、更に一つ上の学びを構築していって欲しい。
3	心身の健康の保持増進及び基本的生活習慣の確立と規範意識の向上	日常の健康観察やカウンセリング、「通級による指導」等により、心身の健康の保持増進や自己理解、コミュニケーション力の向上に努める。 ホームルーム活動や日常の声かけ・生活指導等により、健康的な生活習慣の確立と規範意識の向上に努める。	学校評価アンケート・自己評価アンケート（通級） 学校評価アンケート	・カウンセリング、通級による指導等により、心身の健康保持増進や自己理解、コミュニケーション力の向上に努めているという回答は、ほぼ全ての教員が肯定的に回答した。しかし一方で、生徒の1割強が否定的に回答した。 ・健康的な生活習慣の確立と規範意識の向上に対する指導については教師も生徒も9割が肯定的に回答した。	B	・健康的な生活習慣の確立と規範意識の向上について、教師の日々の指導は伝わっていることは分かるが、生徒の行動にはまだ十分に反映していない。粘り強く、家庭とも連携した指導を継続していきたい。 ・課題が表面化していない生徒も多くいるため、教師は多様な背景を持つ生徒の困難を把握する力をさらに高めていきたい。	3	・きめ細かなカウンセリングや「通級による指導」、また、生徒理解のための「生徒支援研究会」など先進的な取り組みを進めている貴校の存在価値はとても大きいと感じています。生徒の課題について、表面的な言動だけでなく、潜在的な事柄にまで心を配る教職員集団の努力により、生徒たちに「受け止めてもらえている」という安心感が宿っていると感じます。 ・特性の強い生徒集団であることが予想される中で、落ち着いた雰囲気で学校生活が送れていることは、日頃の指導の賜であると考える。個に応じて接し方を変えることは、だいぶ神経を使う場面も多いと思いますが、今後ともご指導をよろしくお願いします。 ・生活習慣と規範意識は繋がるところがあると思います。規範意識を高め、行動に移せる生徒支援をお願いします。 ・生徒を取り巻く環境は、現実の世界と仮想空間が混在する時代になっている。本校の生徒に限らず、生徒が抱える課題や悩みが、教職員や保護者から見えづらくなっている。限界はあると思いますが、カウンセリングや通級などを限られた機会を活用して、それぞれの課題を掘り起こしてください。 ・この問題は、「本校生徒の課題」と言うだけで無く、現代の中・高校生たちの一番の課題である、と認識している。とは言っても、他の項目の評価が高いので、この項目が目立つ感は否めませんが・・・。本項の場合も、アンケートにより9割位は、肯定的に回答しているのだから、大多数は達成していると判断できるが、残りの1割がかなり厳しい状況であると推察される。生活習慣と規範意識の確立を目指し。多様な生徒への対応方法を模索していって下さい。
4	社会性や公共性・道徳心の習得	インターンシップや日常の挨拶・対話等により、いじめを生み出さない望ましい人間関係・社会性・道徳心の育成に努める。 日常の清掃やボランティア活動、愛校作業等により、他人を思いやり、協力と奉仕のできる公共心・責任感・協調性・豊かな心の育成に努める。	学校評価アンケート・いじめアンケート 学校評価アンケート	・日常の挨拶・対話等により望ましい人間関係・社会性を育成する指導について、教師はほぼ全てが肯定的に回答した。いじめアンケートも0件であった。しかし、生徒の回答の中には、1割ではあるが、否定的なものがあった。 ・日常の清掃やボランティア活動等により、協力と奉仕のできる公共心・責任感・協調性・豊かな心の育成について、教師の否定的な回答が2割弱見られた。	B	・日常の挨拶や対話により、教師と生徒の関係づくりはできているが、社会性を身につけさせるためには、場に応じた言葉遣いやソーシャルスキルの育成なども指導が必要である。 ・清掃活動やボランティア活動など、奉仕の心や公共心を養うような教育機会を設けたり、道徳心を養うような授業や教育活動を組み込んでいきたい。	4	・思いやりや協力・奉仕のできる心の育成に関して「もう一歩」と感じている先生方がいるのは志の高さの表れでもあると思います。思いやりは「自分が大切にされる」実感があればこそ生まれる感情だと思います。引き続き、貴校における丁寧に生徒に向き合う指導を続けることで必ず成果は現われることと思います。 ・やり直しを意識している生徒が殆どだと思います。今は、学校で守られている部分も多いでしょうが、先生方の指導・支援や職場体験等の体験を通しながら徐々に社会性が育成されていると思います。卒業後には自立した社会生活が送れるように、引き続きご指導・ご支援をお願いします。 ・いじめの案件がないことから、生徒は友好的な人間関係が築けていることが推察される。今後とも、生徒の様子を見守ってください。 ・学校内の人間関係やコミュニケーションの範囲を超えて、実践的な体験を積むことは非常によい機会です。校内指導だけでは実体験として不十分なので、地域社会での体験活動ができる機会を積極的に作ってください。校内とは違う場面で、生徒の気づきがあると思慮します。 ・1回目の学校評議員会でも発言したが、本校の生徒たちは、地域にて批判的な行動はしていないばかりでは無く、地域住民へのあいさつもしっかりできる生徒が多数いることも事実です。いずれ地域で生きていく生徒たちならば、地域の中に入っていき、そこで活動することも大切であると考えます。具体的には、「清掃活動やボランティア活動」もそうですが、各自治会での行事や活動に参加させてもらう、と言う方法もあると思います。

留意点　（1）重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。
（2）学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

様式1 令和7年度　山梨県立ひばりが丘高等学校評価報告書（自己評価・学校関係者評価）

学校目標・経営方針	自分に誇りを持ち自己を磨き、毎日を生き生きと学ぶ生徒。自分を見つめ困難に打ち克つ生徒。社会人として自立し役割を担うことのできる生徒の育成。

山梨県立ひばりが丘高等学校校長　　小林　久美

本年度の重点目標	
	1　自主的・自律的な生徒の育成
	2　自己肯定感・自己有用感の育成
	3　心身の健康の保持増進及び基本的生活習慣の確立と規範意識の向上
	4　社会性や公共性・道徳心の習得

達成度		
	A	ほぼ達成できた。（8割以上）
	B	概ね達成できた。（6割以上）
	C	不十分である。（4割以上）
	D	達成できなかった。（4割以下）

評価		
	4	良くできている。
	3	できている。
	2	あまりできていない。
	1	できていない。

自　己　評　価							学校関係者評価	
本年度の重点目標				年度末評価（2月1日現在）			実施日　（令和8年2月28日）	
番号	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	自己評価結果	達成度	成果と次年度への課題・改善策	評価	意見・要望等
1	自主的・自律的な生徒の育成	個々の生徒に寄り添い理解することで、「創作授業」や「表現の時間」等により、長所を引き出し、育てる指導を実践し、自主的自律的な態度の育成に努める。	学校評価アンケート					
		部活動や委員会活動等の生徒主体の活動を活性化し、必要に応じて個々の取り組みを後押しすることで、最終的に自主的自律的な態度の育成に努める。また、やまなし学校部活動のガイドラインに沿って、週当たり2日以上の休養日の設定（平日1日、週休日1日）等を行う。	学校評価アンケート					
2	自己肯定感・自己有用感の育成	きめ細やかな少人数制の授業、ICTの活用、AIドリル等による個別最適化した学習支援や授業のユニバーサルデザイン化を図る。また、協働を取り入れた主体的で対話的な深い学びの実践等により、学力の向上に努める。	授業観察・学校評価アンケート・授業アンケート・基礎学力診断テスト					
		総合的な探究の時間における体験的な学習や集団活動により、社会を生き抜く力や課題を解決する力の育成に努めると共に、「創作授業」や「表現の時間」等により、自己肯定感・自己有用感の醸成や自己実現に努める。	学校評価アンケート					
		「表現の時間」「読書活動の時間」「校外学習」等により、他者の言葉に耳を傾け、社会に目を向けることで、自分らしい生き方を追求する態度の育成に努める。	学校評価アンケート					
3	心身の健康の保持増進及び基本的生活習慣の確立と規範意識の向上	日常の健康観察やカウンセリング、「通級による指導」等により生徒の課題解決を支援し、心身の健康の保持増進や自己理解、コミュニケーション力の向上に努める。	学校評価アンケート・自己評価アンケート（通級）					
		登校時や休み時間等の日常の声かけ・生活指導やホームルーム活動等により、健康的な生活習慣の確立と規範意識の向上に努める。	学校評価アンケート					
4	社会性や公共性・道徳心の習得	日常の挨拶の励行・対話やインターンシップを通して、いじめを生み出さない望ましい人間関係・社会性・道徳心の育成に努める。	学校評価アンケート・いじめアンケート					
		日常の清掃、ボランティア活動、愛校作業、部活動等により、他人を思いやり、協力と奉仕のできる公共心・責任感・協調性・豊かな心の育成に努める。	学校評価アンケート					

留意点　（1）重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。
（2）学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

令和７年度　　年間行事予定

山梨県立ひばりが丘高等学校

４月

日	曜日	登校	行事等
1	火	×	職員会議①　年度始め休業（～4/7）
2	水	×	新任職員オリエンテーション 生徒情報引継
3	木	×	運営委員会②
4	金	×	職員会議②　生徒支援研究会①
5	土	×	
6	日	×	
7	月	×	教育課程委員会①　服務規律研修会①
8	火	○	第１学期始業式　新任式　大掃除　昼夜
9	水	○	第22回入学許可式　昼夜
10	木	○	対面式　個人写真撮影 ［校長会①PM］　昼夜
11	金	○	学校生活オリエンテーション 心電図・胸部レントゲン検査（１年次）　昼夜
12	土		登校指導
13	日		
14	月	○	身体測定　LHR　委員会集会 車両通学者集会　昼夜
15	火	○	授業開始　給食開始　［教頭会①PM］
16	水	○	運営委員会③　［進路主事会①］
17	木	○	［教務主任会①］　尿検査（1次）
18	金	○	
19	土		
20	日		
21	月	○	
22	火	○	耳鼻科健診昼夜間１年次［生指主事会①］
23	水	○	職員会議③　進路委員会①　教育相談検査
24	木	○	内科健診（昼13:35　夜間部16:45）
25	金	○	
26	土		
27	日		
28	月	○	
29	火		昭和の日
30	水	○	

休業日数	7
休日数	7
登校日数	16

５月

日	曜日	登校	行事等
1	木	○	
2	金	○	生徒総会　進路説明会 PTA総会　救急救命法講習会　昼夜
3	土		憲法記念日
4	日		みどりの日
5	月		こどもの日
6	火		振替休日
7	水	○	
8	木	○	［定通研理事会①］
9	金	○	尿検査（2次）
10	土		
11	日		
12	月	○	第１回授業相互見学研修
13	火	○	定通制総体（陸上）　［校長会②PM］
14	水	○	運営委員会④　進路関係テスト 創作ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ　［教頭会②PM ｵﾝﾗｲﾝ］
15	木	○	［振興会四者団体代表者会議①］ 歯科検診　［教務主任会②ｵﾝﾗｲﾝ］
16	金	○	学校運営協議会①
17	土		
18	日		
19	月	○	
20	火	○	
21	水	○	職員会議④　愛校作業 進路・卒業年次打合せ①
22	木	○	［商業科総会］
23	金	○	
24	土		
25	日		
26	月	○	
27	火	○	
28	水	○	教育課程委員会② 定通制総体（ﾊﾞﾄﾞﾐﾝﾄﾝ・卓球・ｿﾌﾄﾃﾆｽ）
29	木	○	
30	金	○	［全国定通校長会 総会・協議会］
31	土		定通制総体（ﾊﾞｽｹｯﾄﾎﾞｰﾙ）

休業日数	0
休日数	11
登校日数	20

６月

日	曜日	登校	行事等
1	日		
2	月	○	第１回定期試験
3	火	○	［校長会③］
4	水	○	
5	木	○	［振興会・PETA連絡協議会］
6	金	○	［全国常任理事研究協議会］
7	土		
8	日		
9	月	○	追試験①
10	火	○	［教頭会③］
11	水	○	運営委員会⑤　教育課程委員会③ キャリアガイダンス①
12	木	○	［全国通信制教育研究協議会］ ［教務主任会③］
13	金	○	成績入力〆切（第１回） ［全国通信制教育研究協議会］
14	土		中央通信スクーリング①
15	日		
16	月	○	
17	火	○	［生指主事会②］
18	水	○	防災避難訓練（火災）　職員会議⑤
19	木	×	創立記念日　［進路主事会②］
20	金	○	眼科健診（昼13:35　夜18:45）
21	土		
22	日		
23	月	○	教育実習期間
24	火	○	
25	水	○	成績会議①　生徒支援研究会② 愛校作業
26	木	○	
27	金	○	
28	土		
29	日		
30	月	○	

休業日数	1
休日数	9
登校日数	20

７月

日	曜日	登校	行事等
1	火	○	［校長会④PM］求人受付開始
2	水	○	運営委員会⑥ 進路・卒業年次打合せ②
3	木	○	
4	金	○	漢検①
5	土		中央通信スクーリング②
6	日		第１回懇談期間
7	月	○	
8	火	○	
9	水	○	職員会議⑥
10	木	○	
11	金	○	
12	土		
13	日		
14	月	○	創作授業事前指導　LHR 産業事情説明会
15	火	○	安全点検
16	水	○	創作授業　学校運営協議会②
17	木	○	
18	金	○	模擬面接（卒業生全員）
19	土		
20	日		
21	月		海の日
22	火	○	大掃除（WAX）　教育相談研修会 服務規律研修会②　昼夜
23	水	○	第１学期終業式 表彰式・納め式・壮行会　昼夜
24	木	×	夏季休業（～8/21） ［全国定通教頭・副校長研究協議会］
25	金	×	［全国定通教頭・副校長研究協議会］
26	土	×	
27	日	×	
28	月	×	
29	火	×	
30	水	×	
31	木	×	

休業日数	8
休日数	7
登校日数	16

８月

日	曜日	登校	行事等
1	金	×	
2	土	×	
3	日	×	
4	月	×	［教育課程研究集会（情報・特活・総探）］
5	火	×	［教育課程研究集会（各教科）］
6	水	×	［校長会⑤PM］
7	木	×	［全国定通教育振興会］
8	金	×	［全国定通教育振興会］
9	土	×	
10	日	×	
11	月	×	山の日
12	火	×	
13	水	×	
14	木	×	
15	金	×	
16	土	×	
17	日	×	
18	月	×	
19	火	×	運営委員会⑦　進路検討会議
20	水	×	職員会議⑦　生徒支援研究会③
21	木	×	［振興会四者団体代表者会議②］
22	金	○	第２学期始業式　大掃除 進路委員会②　昼夜
23	土		
24	日		
25	月	○	表現の時間　昼夜
26	火	○	模擬面接（就職希望）　登校指導　昼夜
27	水	○	模擬面接（就職希望） ［教頭会④PM］　昼夜
28	木	○	防災避難訓練（地震） 学校運営協議会③　昼夜
29	金	○	表現の作文発表会 創作展示・投票　昼夜
30	土		
31	日		

休業日数	21
休日数	4
登校日数	6

９月

日	曜日	登校	行事等
1	月	○	授業再開
2	火	○	［校長会⑥PM］
3	水	○	運営委員会⑧
4	木	○	
5	金	○	就職応募書類提出
6	土		
7	日		
8	月	○	
9	火	○	
10	水	○	職員会議⑧
11	木	○	
12	金	○	
13	土		
14	日		
15	月		敬老の日
16	火	○	就職採用選考開始　［生指主事会③］
17	水	○	進路委員会③
18	木	○	
19	金	○	
20	土		
21	日		
22	月	○	
23	火		秋分の日
24	水	○	第２回定期試験
25	木	○	
26	金	○	学校説明会（教員対象）
27	土		
28	日		
29	月	○	
30	火	○	教育課程委員会④

休業日数	0
休日数	10
登校日数	20

令和７年度　　年間行事予定

山梨県立ひばりが丘高等学校

１０月

日	曜日	登校	行事等
1	水	○	運営委員会⑨　追試験② ［教頭会⑤PM ｵﾝﾗｲﾝ］
2	木	○	
3	金	○	
4	土		
5	日		
6	月	○	
7	火	○	成績入力〆切（第２回）
8	水	○	職員会議⑨　服務規律研修会③ 愛校作業
9	木	○	［全国単位制高校校長連絡協議会］
10	金	○	［全国単位制高校校長連絡協議会］
11	土		
12	日		
13	月		スポーツの日
14	火	○	
15	水	○	定通教育祭　昼夜
16	木	○	［教務主任会④］［進路主事会③ｵﾝﾗｲﾝ］
17	金	○	
18	土		中央通信スクーリング③
19	日		
20	月	○	
21	火	○	
22	水	○	成績会議②　生徒支援研究会④
23	木	○	
24	金	○	漢検②
25	土		
26	日		
27	月	○	
28	火	○	
29	水	○	履修指導説明会　進路委員会③
30	木	○	
31	金	○	校外学習　昼夜

第２回授業相互見学研修

休業日数	0
休日数	9
登校日数	22

１１月

日	曜日	登校	行事等
1	土		
2	日		
3	月		文化の日
4	火	○	［校長会⑦PM］
5	水	○	運営委員会⑩
6	木	○	
7	金	○	
8	土		中央通信スクーリング④
9	日		ビジネス計算検定
10	月	○	
11	火	×	［定通研究大会］　［生指主事会④］
12	水	○	職員会議⑩
13	木	○	
14	金	○	
15	土		
16	日		
17	月	○	
18	火	○	
19	水	○	愛校作業
20	木	×	県民の日
21	金	○	
22	土		
23	日		勤労感謝の日 ビジネス文書検定
24	月		振替休日
25	火	○	
26	水	○	
27	木	○	
28	金	○	
29	土		
30	日		

図書館まつり

第２回懇談期間（履修指導）

第３回定期試験

休業日数	2
休日数	12
登校日数	16

１２月

日	曜日	登校	行事等
1	月	○	追試験③
2	火	○	［校長会⑧PM］
3	水	○	運営委員会⑪
4	木	○	
5	金	○	成績入力〆切（第３回）
6	土		学校説明会（希望者対象）
7	日		
8	月	○	
9	火	○	［教頭会⑥PM ｵﾝﾗｲﾝ］
10	水	○	職員会議⑪　服務規律研修会④
11	木	○	［教務主任会⑤］
12	金	○	
13	土		
14	日		
15	月	○	
16	火	○	
17	水	○	成績会議③　生徒支援研究会⑤
18	木	○	
19	金	○	
20	土		
21	日		
22	月	○	
23	火	○	保健講話　昼夜
24	水	○	大掃除（WAX）　昼夜
25	木	○	第２学期終業式　表彰式・納め式 内定者激励会　昼夜
26	金	×	冬季休業（～1/8）
27	土	×	
28	日	×	
29	月	×	
30	火	×	
31	水	×	

安全点検

休業日数	6
休日数	6
登校日数	19

１月

日	曜日	登校	行事等
1	木	×	元日
2	金	×	
3	土	×	
4	日	×	
5	月	×	
6	火	×	
7	水	×	
8	木	×	
9	金	○	第３学期始業式　大掃除　昼夜
10	土		
11	日		
12	月		成人の日
13	火	○	
14	水	○	運営委員会⑫
15	木	○	
16	金	○	
17	土		
18	日		情報処理検定
19	月	○	
20	火	○	
21	水	○	職員会議⑫　愛校作業
22	木	○	
23	金	○	
24	土		
25	日		
26	月	○	
27	火	○	
28	水	○	
29	木	○	
30	金	○	学校運営協議会④
31	土		

登校指導

休業日数	8
休日数	8
登校日数	15

２月

日	曜日	登校	行事等
1	日		
2	月	○	［校長会⑨PM］
3	火	○	［定通研理事会②］
4	水	○	
5	木	○	教育課程委員会⑤
6	金	○	生徒支援研究会⑥
7	土		
8	日		
9	月	○	［教頭会⑦PM］
10	火	○	答案返却　追試験④　運営委員会⑬　昼夜
11	水		建国記念の日
12	木	○	交通講話　成績入力〆切（第４回） ［教務主任会⑥ｵﾝﾗｲﾝ］　昼夜
13	金	○	教養講座　昼夜
14	土		
15	日		
16	月	×	個別懇談日　職員会議⑬　成績会議④ 単位・卒業認定会議
17	火	○	キャリアガイダンス② 巣立ち教室　［生指主事会⑤］　昼夜
18	水	○	キャリアガイダンス③　昼夜
19	木	○	薬物乱用防止教室 ［進路主事会④ｵﾝﾗｲﾝ］　昼夜
20	金	×	個別懇談日 単位追認試験（卒業予定生）
21	土		
22	日		
23	月		天皇誕生日
24	火	×	個別懇談日　単位・卒業追認定会議 職員会議（入試）
25	水	○	大掃除（入試前）　昼夜
26	木	○	卒業式式場設営　礼法指導　昼夜
27	金	○	表彰式　卒業式予行　昼夜
28	土		

第４回定期試験

蔵書点検

出願期間

志願変更期間

休業日数	3
休日数	10
登校日数	15

３月

日	曜日	登校	行事等
1	日	○	第20回卒業証書授与式　昼夜
2	月		3/1の代休
3	火	×	定時制募集検査　会場準備
4	水	×	定時制募集検査（学力検査）
5	木	×	定時制募集検査（面接・採点）
6	金	×	個別懇談日
7	土		
8	日		
9	月	×	編入学検査　運営委員会⑭
10	火	×	追検査
11	水	×	選抜会議
12	木	×	入学許可予定者発表
13	金	○	教科書・副教材購入指導　昼夜
14	土		
15	日		
16	月	×	個別懇談日　職員会議⑭
17	火	×	個別懇談日　単位追認試験（在校生）
18	水	×	個別懇談日　単位追認定会議
19	木	○	第３学期終業式 表彰式・納め式　昼夜
20	金		春分の日
21	土		
22	日		
23	月	×	年度末休業（～3/31） 職員会議（再募集）
24	火	×	再募集検査
25	水	×	選抜会議（再募集）
26	木	×	入学許可予定者発表（再募集） 新入生オリエンテーション
27	金	×	離退任式
28	土	×	
29	日	×	
30	月	×	令和８年度運営委員会①
31	火	×	

安全点検

再募集出願期間

休業日数	20
休日数	8
登校日数	3

令和７年度学校運営協議会教務資料

～学校概要･学習指導について～

①本校の概要

所 在 地　〒403-0032　富士吉田市上吉田東４丁目3-1
電　　話　0555-22-8015　FAX　0555-22-8016
URL　http://www.hibarih.kai.ed.jp/
Email info@hibarih.kai.ed.jp
創　　立　平成16年
課　　程　定時制(単位制)
交通機関　富士急行線富士山駅より徒歩15分
教 員 数　28 名

生 徒 数　100 名

学科＼年次		1年次		2年次		3年次		4年次	
		男	女	男	女	男	女	男	女
普通科	昼間部	8	13	9	9	7	8	4	3
	夜間部	1	1	0	2	3	2	2	1
情報経理科	昼間部	5	2	1	7	2	1	2	7

本校は郡内では唯一となる定時制単独の高校で、**昼間部（普通科・情報経理科）と夜間部（普通科）**の二部制となっています。また、３学期制を敷いています。

毎日の授業については、昼・夜間部ともに通常１日４単位時間（１単位時間＝４５分間）になっており、週（月～金）あたりは２０単位時間で、**４年間での学習（卒業）が基本**です。授業の時間は昼間部が 10:10～14:20、夜間部が 16:45～20:45 となっていて、**夜間部には給食**があります（17:30～18:00）。昼・夜間部の間（14:40～16:15）に共通選択授業の時間を設定しており、どの生徒も自由に授業を受けることができます。ゆっくり学びたい生徒もしっかり学びたい生徒も、各自の生活時間に沿った学習計画を立てることができます。この共通選択科目を一定数履修・修得することにより、**３年間で卒業することも可能**となっています。

「やり直しのできる学校」を合言葉に、多様な生徒のニーズや希望に合った教育をしています。令和２年度から通級による指導が始まり、より生徒の実態に即した学校が出来上がりつつあります。

その他の特徴

・１日４時間（週２０時間）の授業でじっくり学ぶ学校

→年間１９単位（ＬＨＲを除く）を※履修・修得できる

・２時間連続して同じ授業を受ける（総合・ＬＨＲを除く）

・**アルバイトをすることができる**→社会経験を積むことを重視。

○学科・教育課程の特色

普　通　科	普通教科・科目の学習を中心に、幅広い教養を身に付けることを目標としています。情報経理科に比べ、普通科目をバランスよく学ぶことができます。
情報経理科	基本的な普通教科・科目の学習に加え、商業科目の学習を通じて、商業及びビジネスに関する知識を学ぶことができます。授業の中で商業科の検定試験の勉強をすることもできます。

○昼間部・夜間部の違い

昼間部	夜間部
・**普通科、情報経理科**の２学科 ・授業は**パート別授業**（５～１０名程度） or**ティームティーチング** ・在籍生徒数（令和６年度） １年次　普１８名　情　８名 ２年次　普１６名　情　３名 ３年次　普１０名　情１０名 ４年次　普　５名　情　７名	・**普通科のみ** ・授業は**クラス単位**が中心 ・７・８校時の間に**給食**（自己負担あり） ・在籍生徒数（令和６年度） １年次　３名 ２年次　５名 ３年次　２名 ４年次　２名

○日課表

昼間部

時限	時間
１校時	10:10～10:55
２校時	11:00～11:45
昼　食	11:45～12:30
ＳＨＲ	12:30～12:40
３校時	12:45～13:30
４校時	13:35～14:20
清　掃	14:20～14:35

共通選択授業

時限	時間
５校時	14:40～15:25
６校時	15:30～16:15

部活動	14:40～16:45

夜間部

時限	時間
７校時	16:45～17:30
給　食	17:30～18:00
８校時	18:00～18:45
９校時	18:50～19:35
10校時	19:40～20:25
ＳＨＲ	20:25～20:35
清　掃	20:35～20:45

※共通選択科目

- 月～金（水を除く）の**５・６校時**
- 週２～４日程度
- 誰でも（昼間部でも夜間部でも、普通科でも情報経理科でも）受けることができる
- 興味・関心、進路希望に合わせて選択する
- **３年卒業を目指す人は（基本的に）受講する**が、４年卒業を希望する人も受講できる
- 通常の授業に比べると、やや難易度が高い科目がある（4年次の授業内容を扱うため）

受けている生徒は
全校で**４０名**

②本校での学習について

○4 年で卒業する「四修生」と３年で卒業する「三修生」

高校卒業に必要な修得単位数＝７４単位

- 卒業に必要な単位数（７４）よりも少なくなってしまった場合は、３年での卒業を目指す人と同じように共通選択授業等を活用し、修得単位数が７４単位を超えるようにする必要がある。

１日４時間（※昼１～４校時または夜７～１０校時）の授業のみで取れる単位数は…

１年	２年	３年	４年	合計
１９	１９	１９	１９	７６

高校卒業に必要な修得単位数＝７４単位

昼１～４校時（夜７～１０校時）の授業のみだと…

１年間の単位数×年数	計
１９ × ３	５７

７４－５７＝**１７単位** 不足

３年間で卒業する場合は**下記の４つの方法**のいずれかで不足分（１７単位）を補う

- **共通選択授業**の履修・修得
- 高校卒業程度認定試験合格
- 各種検定試験等合格
- 県立通信制高校との併修

○すらら（AIドリル）を用いた授業等

・Individual　Studies（今年度より実施）

教科名	Individual Studies	
科目名(単位数)	IS Basic（２）	IS Advanced（１）
対象生徒	学び直しを必要とする生徒	進路実現（主に進学）を目指す生徒
備　考	・**５・６校時帯**に実施する。 ・全ての教科で授業を担当する。 ・最初の１～２回は本人の学力を測る機会とし、年間の目標と学習計画を設定する。 ・計画に沿って学習することができれば、単位を認定する。 ・定期テストは行わない。 ・文言による評価とする。 ・卒業の単位に含める。	・**学校外の学修**として単位認定する。 ・進路実現に向けてより習熟度の高い内容を個別に学ぶ。 ・学習する場所・時間を自身で設定することができる。 ・学習計画の設定、定期試験、評価はIS Basicと同様とする。 ・単位認定については、その他の単位認定願を提出し、計画に沿って学習したことが認められることを条件とする。

・普段の授業でも、個人端末を利用して活用しています。

・全校共通の問題で本校生徒の基礎学力を測る「学びの基礎学力検査」でも、すららのテストを活用しています。

授業以外にも・・・

○ひばりのドリカムプラン

本校のキャリア教育の取り組みとして、**自己肯定感・自己有用感**の育成を目指した様々な活動の総称を**「ひばりのドリカムプラン」**と呼んでいます。キャリア学習、体験学習、探究活動、創作授業等が年間の予定の中に組み込まれています。

○教養講座

毎年、2月に外部の講師による講演会を実施しています。社会で活躍されている方の話を聞き、自身の生き方や考え方、人生について考えるきっかけになる時間となっています。今年度は県内で鬼テナガエビの養殖事業を行っている株式会社陸作の今村秀樹様をお招きして挑戦することの大切さや仕事への熱意などを語っていただきました。また、お話を聞くだけでなく、オニテナガエビの塩焼きを試食するなど、体験を通して考えるということも重視している行事です。

○学校ホームページについて

ひばりが丘高校の活動はホームページで紹介しています。随時更新していますので、そちらをご覧下さい。右のQRコードからアクセスできます。

生徒の状況と指導方針について

生徒指導

本校には、毎年多様な生徒が入学してくる。入学直前の３月に、中学校の関係者（担当教員や養護教諭）と高校の教員間で、入学生に関する情報交換会が行われている。

１　登校指導について

今年度も毎朝登校時に登校指導を実施し、挨拶の励行を行っている。登校する生徒の約２０％は保護者の送迎であり、約１０％が原付か自転車、他の生徒は交通機関利用か徒歩である。午前９時３０分頃には登校する生徒が多く、遅刻する生徒は少ない。ただ、始業時間に来ていない生徒は一日休んでしまう傾向にある。

２　服装・頭髪の指導について

本校では指定の制服を定めておらずに、登下校および学校生活では標準服の着用を原則義務付けている。(学校ジャージも可）頭髪については、自然な髪型を基本として、特別な加工や茶髪等に染めることを禁止している。頭髪の色や服装で規程に違反する生徒については、授業への参加を認めつつ、規律を守ることの大切さについて粘り強く指導して、自主的な改善を促す指導に取り組んでいる。

３．問題行動等について

昨年度の問題行動は喫煙等があり、喫煙に関して、法的に制限されていない電子タバコに対する対処は難しい問題があった。全教員で話し合いを進め、法的な側面を鑑みながら、校則を変更し、新年度の初めに全生徒への通知を徹底した。今年度も時代の移り変わりにより新しい対応が求められる原動機付自転車の問題などについても議論を進めていきたい。

４．いじめについて

昨年度も年間を通して、いじめの発生数は０件であった。いじめは重大な事案となる前に、職員全員で生徒の変化に注意し、早期発見と迅速な対応が必要だと考えている。今後もアンケート調査等を定期的に行い、いじめの発生を確認した場合は、いじめ問題対策委員会において慎重に審議し、また警察などの外部機関との連携を深め、全職員の共通理解のもとに、加害生徒と被害生徒に適切な対応を行う。

５．生徒支援研究会について

今年も年間６回の生徒支援研究会の実施を予定している。

令和７年度　進路指導部の取り組みについて

（重点項目）
〇キャリア教育の推進
・体験的な活動を重視した「総合的な探究の時間」の実施
・生徒の成長段階に応じた計画的運営と評価および改善を行う
〇生徒一人ひとりに適した進路の実現と早期離職の防止
・生徒個々の進路希望状況を把握し最適な進路選択を指導する
・ミスマッチを防ぐために職場見学（就職希望者は３、４社）、オープンキャンパスへの参加（進学者全員）
・ハローワークやジョブカフェやまなし、やまなしサポートステーション、社会保険労務士等の関連機関との連携を図り、進路実現をサポートする（模擬面接指導、キャリア講座、各種自立支援）
・定着指導を実施することで地元企業との交流を図り生徒の離職防止に努める

（１）キャリア教育の推進
・総合的な探究の時間や学校行事を活用して、地域の方や職業人を講師として招き、様々な体験活動や交流活動を行うことで、地域社会との連携を深め地元産業の振興に携われる人材、地域活動に積極的に参加できる人材の育成を目指す。
① 入学から卒業までのキャリア教育の実践（段階的な探究活動）
１年次「うどん探究」２年次「地域探究Ⅰ」３年次「地域探究Ⅱ」４年次「自己探究」
② 社会人基礎力の育成
③ 地域との交流を深めることを目的とする。
・「よのなか科」講座（知識と実際の世の中との懸け橋になるアクティブラーニング授業）の３プログラムを総探１年次にて導入
① 「ＡＩとロボット～なくなる仕事～」（シュミレーションする力を養う）
② 「山梨ビジネスモデル」（起業家の視点を学ぶ）
③ 「人生曲線」（これまでの人生エネルギーカーブを振り返り今後に生かす）
・３年次「地域探究Ⅱ」において地域の方にアドバイザーとして参加していただく。

（２）進路実現の指導
①卒業予定生対象の進路説明会（５月）
②定着指導　（６月上旬）
③進路ガイダンス（進路・年次・ジョブカフェ講座、サポステ講座、ハローワーク講座）
・就職活動の準備（５月～）
・履歴書の書き方（６月～）・求人票の見方（６月～）
・面接の受け方（７月～）
④進路実現講座（７月１５日～１７日）
⑤外部講師による模擬面接（７月１８日）
⑥インターンシップ、職場見学やオープンキャンパスへの参加（夏季休業中）
⑦直前模擬面接　（８月２６日～８月２７日）

★現在の進路状況
今年度の卒業予定生は１９名で、そのうち現在就職希望者が１２名、進学希望者が７名である。今年の求人も増加が見込まれている。各企業とも高卒採用に対する関心が高く採用条件の見直し等対策を立てている。生徒は地元志向が強い。地域にも優良な中小企業が多いので、企業の人事担当者と情報共有する中で、生徒にとってよりよい就職先を今後も開拓するつもりである。3 月に卒業した生徒は研修を終えて実践現場で元気に活躍している。過年度卒業生の中には離職してしまった生徒もいるが、「会社に無くてはならない存在」と評価されている生徒もいる。進学についても高い学費を払って途中でやめてしまうことがないようにガイダンス等、直接学校の担当者から話を聞く機会を増やし、ミスマッチを防ぐ手立てを取っている。引き続き生徒の進路実現に向けて注力していきたい。

令和７年度の予定および活動状況について

生徒会指導部

１学期	４月 10 日	対面式　※昼夜合同
	５月　２日	生徒総会　※昼夜合同
	５月 13 日	定時制通信制総合体育大会（陸上競技） 女子８００ｍ　　２位　２年次女子 男子走り幅跳び　　３位　３年次男子
	５月 28 日	定時制通信制総合体育大会（球技）
	５月 31 日	定時制通信制総合体育大会（バスケットボール）
	７月 15 日 ～18 日	創作授業（切り絵・絵画・絵手紙・刻字・陶芸・染物 ・かご作り・木工）
	７月 23 日	納め式・表彰式・終業式　※昼夜合同
夏季休業	７月 24 日～ ８月 21 日	全国高等学校定時制通信制体育大会
２学期	８月 29 日	校内表現の作文発表会・創作授業成果発表会　※昼夜合同
	10 月 15 日	定通高校教育祭（YCC 県民文化ホール）※昼夜合同
	11 月中旬	赤い羽根共同募金　各種ボランティア活動への参加
	12 月 25 日	納め式・表彰式・終業式　※昼夜合同
３学期	２月 27 日	卒業生表彰式（各種外郭団体表彰・生徒会功労賞）　※昼夜合同
	３月　１日	卒業証書授与式　※昼夜合同
	３月 19 日	納め式・表彰式・終業式　※昼夜合同
	３月 27 日	離退任式　※昼夜合同

１．令和７年度「しなやかな心を育てる生徒会活動実践運動」実践内容

『 教職員・生徒双方が互いに挨拶をしっかり交わすことを重点に取り組みます。』

２．活動状況について

今年度は生徒会委員会生徒の意欲的な学校生活への取り組みが見られる。

運動部は県定通総体の結果を受けて、陸上は女子 800m走、男子走り幅跳びが夏休み中に全国大会に臨むこととなりました。

文化局ではうどん部が例年のように精力的に活動しています。

生徒会活動は生徒会委員会を中心に「対面式」「生徒総会」「表彰式・納め式・壮行会」をスムーズに進行することができました。

今後も生徒の健康及び安全を確保する中で、多くのことを体験させていきたいと思います。

第１回学校運営協議会資料　保健相談部

令和７年５月１６日

１　教育相談に関すること

＜昨年度の取り組み＞

⑴令和６年度学校配置ＳＣ（スクールカウンセラー）の活用状況（５月～２月）

ＳＣは２名配置で、延べ２２日、合計１６０時間

①　相談者数

	生徒の相談															
	１年		２年		３年		４年		生徒	保護者	教職員	その他	合計
実人数	18		10		9		3		40	2	16	0	58
うち継続者数	0		10		9		3		22	0	13	0	35
延べ人数	①	54	②	30	③	28	④	9	121	6	0	0	127

②　主訴別相談件数（延べ件数）

	不登校	いじめ問題	暴力行為	児童虐待	友人関係	貧困の問題	ヤングケアラー	非行・不良行為	家庭環境虐待貧困以外	教職員との関係	心身の健康保健	学業進路	発達障害等	その他の内容	合計	
生徒	3	2	0	0	2	3	0	0	32	0	29	0	35	0		103
保護者	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		2
教職員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0

③　教職員へのコンサルテーション　　60回

④　研究会、研修会などの講師の回数　１回

・本校でのカウンセリングからの具体例を踏まえて、本校生徒の特性や生徒に関わる際に気を付けたほうが良い事柄など、職員全体へのコンサルテーションとしての意見交換を１１月、２月の年間２回実施した。

＜今年度の取り組み＞

⑵令和７年度の学校配置ＳＣ活用事業について

・今年度配置のSC…高崎　真理先生（１００時間）、石黒　仁先生（６０時間）

・５月よりカウンセリングを開始し、令和８年２月まで実施。

・ＳＣそれぞれ月１回～２回勤務。生徒、保護者、年次職員などの希望により日程を調整。
カウンセリング後は、担任及び年次主任などとのコンサルテーションを実施する。

⑶教育相談への取り組み

・学校全体で取り組む生徒相談の体制づくりを確立する。生徒指導及び教育相談に関する各委員会と、ＳＣ、ＳＳＷなどとの連携により、生徒・保護者及び年次職員を十分に支援していく。

・全教職員を対象として７月に教育相談研修会を実施。今年度は学校配置 SC の高崎　真理先生に講師をお願いして、『LGBT 教育』について全教職員の資質向上を図る。

２　その他

（１）保健業務及び感染症対策に関すること

・感染症関連情報についての資料配布・ポスター掲示など、情報共有及び注意喚起。保健だよりの発行など。

・アルコール消毒の設置、換気の励行、手洗いの徹底などの指示と実践の指導。

・健康診断等については、ソーシャルディスタンスなどを守り、安全に実施する。（４～６月で実施予定）

・全生徒への毎日の検温等健康観察を継続し、感染防止意識の向上を図る。

困り感や不安がある生徒が，特別な教育課程を個別に編成して受けられる授業

「通級による指導」学校運営協議会資料

山梨県立ひばりが丘高等学校

【授業の目的】

- 学習上や生活上に困難さを感じている生徒が、自己理解を深め、不安を軽減する方法を探る。
- 心理的な安定や人間関係の形成、コミュニケーションにおける課題に向き合い、改善・克服するための知識・技術および主体的な態度を身に付ける。
- 卒業後の就労や進学も視野に入れ、外部機関と連携しながら社会に参画するために必要な力の育成を目指す。

【対象者】

・本人並びに保護者の受講希望があることが前提で①または②に該当し、③で認められた生徒。

① 集団行動や対人関係に困り感や不安がある生徒

② 比較的軽度な発達障害を有する生徒

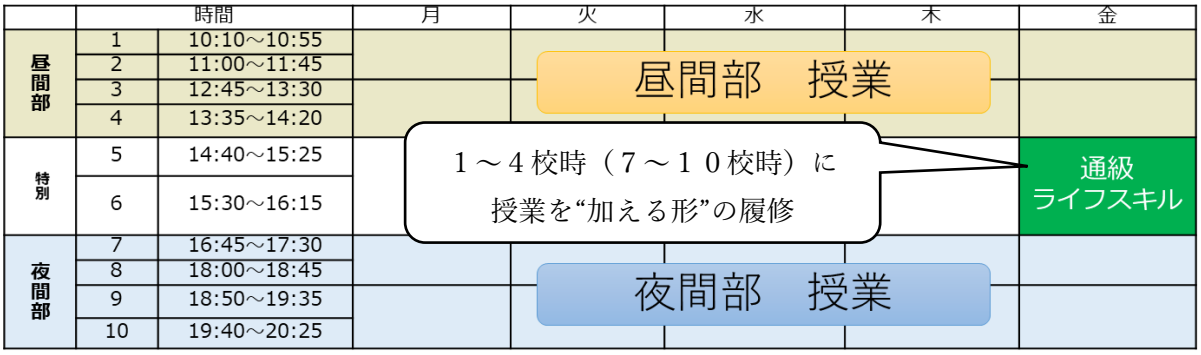
③ 校内委員会で通級指導の認定を受けた本校生徒

※ 認定を受けるにあたって、本人と保護者のニーズの聞き取りを行います。

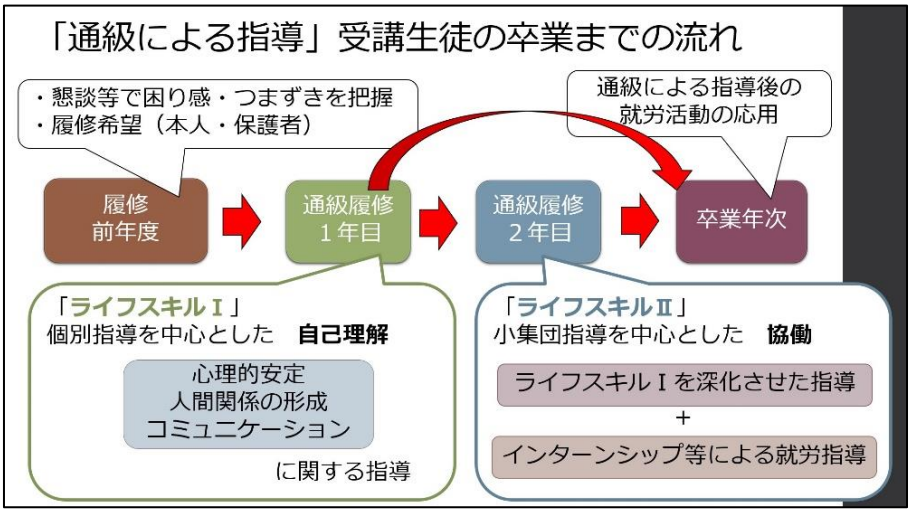
【科目名と履修年次】

- ライフスキルⅠ（LSⅠ）：原則的に２年次以降対象　　令和７年度履修者：３名
- ライフスキルⅡ（LSⅡ）：LSⅠ修得者を対象に実施　　令和７年度履修者：４名

【実施時間と単位】年間２単位。



【履修者の卒業までの流れ】



【指導内容】

・　特別支援学校学習指導要領に基づいた自立活動の指導を行う。

・　ソーシャルスキルトレーニングや作業活動を中心とする個別のコミュニケーション指導。

・　個々の課題の克服にむけて個別に設定した活動。

【具体的内容（例)】個別の目標を達成できたか年度末に審議し、単位修得を判断する。

	【LS Ⅰ】 ソーシャルスキルトレーニングを主とした コミュニケーション指導	【LS Ⅱ】 作業学習を通して行う コミュニケーション指導
題材	あいさつ・自己紹介の型	なぜ働くのか？
	聴くスキル　話すスキル	挨拶・返事はなぜ必要か？
	パーソナルスペース	履歴書　自己分析　長所と短所
	ゲームを通して、相手の気持ちを考える	自分の行動を客観視　自己評価と他者評価
	ルールとマナー	報告・連絡・相談する練習
	ストレスマネジメント	トラブル対策
	気持ちの切り替え方	どういう行動がより良いのか
	自分にかかるお金	作業学習（事務作業・サービス業）
	スマホ・SNS を用いた友人との付き合い方	インターンシップ事前・事後学習
	課題対応学習	インターンシップ

【昨年度のインターンシップ】

山梨さえき　セルバ河口湖 BELL 店	令和６年７月２５日～２９日
ファッションセンターしまむら富士吉田店	令和６年７月３１日～８月２日
Naturasl Food Café CON BRIO	令和６年８月１日～３日
松山油脂株式会社　富士河口湖工場	令和７年３月１１日～１３日
山梨さえき　セルバ忍野店	令和７年３月１８日～２０日

セルバ河口湖 BELL 店　青果

開店前の品出し

しまむら　商品陳列

カフェ　調理補助作業

松山油脂　石鹸製造

セルバ忍野店　品出し

令和７年度学校運営協議会設置通知書交付式・学校運営協議会委員委嘱状交付式
及び第１回学校運営協議会

日　時：令和７年５月１６日（金）１０：００～１２：３０
場　所：山梨県立ひばりが丘高等学校　総合実践室

（１）学校運営協議会設置通知書交付式・学校運営協議会委員委嘱状交付式
（司会：学校運営協議会　担当指導主事）

① 開式の言葉（司会）
② 県教育委員会あいさつ
③ 県教育委員会職員紹介
④ 学校運営協議会設置通知書交付
⑤ 学校運営協議会委員委嘱状交付
⑥ 閉式の言葉（司会）

（２）第１回学校運営協議会
（司会：教頭）

① 開会の言葉（司会）
② 学校長あいさつ
③ 学校運営協議会委員自己紹介
④ 学校運営協議会の運営等に関する要綱について
⑤ 学校運営協議会会長及び副会長選出
⑥ 会長・副会長あいさつ
⑦ 協議（議長：会長）
　ア 令和７年度学校運営基本方針について（校長）
　イ 学校評価報告書について（副校長）
　ウ いじめ防止基本方針について（副校長）
　エ その他
⑧連絡事項
　ア 令和７年度年間行事予定について（教務）
　イ 学校概要および学習指導について（教務）
　ウ 生徒指導について（生徒指導）
　エ 進路指導について（進路指導）
　オ 教育相談について（保健相談）
　カ 生徒会活動について（生徒会）
　キ 通級による指導について（通級）
　ク その他

（３）意見交換
（４）閉会の言葉（司会）

＊第１回学校運営協議会出席者

●学校運営協議会委員（順不同）

元ひばりが丘高校校長	内田　大介	様
下宿連合自治会長	矢﨑　政美	様
都留文科大学特任教授	佐藤　比呂二	様
富士吉田市立明見中学校校長	加々美竜也	様
富士吉田市立教育研修所所長	林　龍樹	様
富士吉田商工会議所直前会長	赤池　優樹	様
富士吉田市社会福祉協議会事務局長	白須　美行	様
ひばりが丘高校ＰＴＡ会長	藤江　康弘	様
ひばりが丘高校校長	小林　久美	
ひばりが丘高校進路指導主事	坂本　洋子	

●本校関係者（上記の委員を除く）
副校長　教頭　事務長　教務主任　生徒指導主事
保健主事　生徒会主任　通級リーダー

第１回学校運営協議会　議事録

司会：教頭

①　開会の言葉（教頭）

②　学校長あいさつ
・本校に４月に赴任しましたが、地域の使命を受け生徒に寄り添った教育システムが構築されていると感じている。
・昨年６月１９日に創立２０周年を祝う会を開催した。
・４，５月と生徒は緊張感を持って学校生活を送っており、ここまで皆勤の生徒も多く見られる。
・教師はカウンセリングマインドの姿勢で生徒を迎えていることが伝わってきている。
・探究活動、体験活動、創作授業が今後行われていくが、委員の皆様にも今後

見ていただける機会を設けようと考えている。
・本校に対してのご助言をいただきたい。

③　学校運営協議会委員自己紹介

④　学校運営協議会の運営等に関する要綱について
・資料のとおり副校長が説明

⑤　学校運営協議会会長及び副会長選出
・意見がなく、事務局が提案し、委員が承認
会　長　内田大介　様
副会長　矢﨑政美　様

⑥　会長・副会長あいさつ

⑦　協議（議長：会長）
ア 令和７年度学校運営基本方針について（校長）
校長：「本校の校訓」「令和７年度指導重点」「ひばりのドリカムプラン」について資料をもとに説明。
会長：校長に対し学校運営協議会からどのような部分について、諮問したいかを問う。
校長：本校の内容を委員の皆様にまずは知っていただき、本校の目線とは違ったそれぞれの立場、視点、切り口から改善点等があればご助言、ご支援をいただきたい旨、回答。
会長：現時点で委員からご意見等なければ今後直接学校にご意見等賜るようお願いしたい。

イ 学校評価報告書について（副校長）
副校長：令和６年度学校評価報告を参考にしていただき、令和７年度の重点目標についてご審議いただきたい。
会長：ご質問ご意見等ございましたらお願いしたい。
委員：自己肯定感・自己有用感の育成という評価項目は、あえて似たような２つの言葉を分けて使われており、そこを意識しているところがすごく良い目標設定だと感じている。
委員：現代社会は、ネットを通じて事件や事故が散見しているが、多くの人間と関わることは大事なことなので商工会議所としても地域との関わりが持てる機会を設けていきたいと思っている。

委員：闇バイトやＳＮＳについては大人より子供の方がよく知っている。
ＳＮＳに関する知識が良い方向に向くように親よりも信頼性のある学校の先生に子供の役に立つ教育をしていただければ親としてありがたい。

委員：「生徒の課題解決を支援」や「登校時や休み時間等」の子供達の様子や発信する言葉に教員がアンテナを高くし寄り添い、小さなところから子供の情報を掴み予防に努める視点が加わり今後どう評価につながるか注視したい。

委員：学校評価についての評価方法は、その学校内での評価であり、地域からどう思われているのかという捉えや観点からの評価が必要であると思うのでそんな情報収集もしていただきたい。

委員：社会性・公共心・道徳心の習得に関し、昨年まで勤務した小学校で小３の総合的な学習の地域学習で本校の生徒に「うどん作り」について指導していただいた。小学生にとっては地域のお兄さんお姉さんから学ぶことができ楽しそうであり、本校生徒の子供達に関わる表情も良かったと感じている。市の教育委員会として今後も小中高の連携、交流を通して地域の子供達の健全育成として「つなぐ」ということを果たしたい。

委員：本校のキャリア教育について新聞の記事を見た。キャビンアテンダントを講師として招聘し挨拶の仕方やマナー教育について実施したという内容のものであった。参加生徒から「良かった」というコメントも見られ本校でもとても大切な取り組みをしていることが伝わってきている。徒歩通勤で高校生からも挨拶をしていただき地域の教育も子供達に響いていると思うので自信を持って教育していただきたい。

会長：令和７年度の重点目標として委員から概ね肯定的な意見や専門的なアドバイスをいただきましたので、この重点目標で一年間お願いしたい。

ウ いじめ防止基本方針について（副校長）

副校長：資料のとおり副校長が説明

委員：実態として現状あるのか？

副校長：昨年度申告は「０」件。

委員：０件は素晴らしい。ただ、本質的な実態は分かりづらいと思う。大人社会でもいじめはあるが、いじめのない学校であってほしい。

委員：スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの役割について、後ほど分掌主任からの連絡事項の中で教えてほしい。

エ その他

・特になし

⑧ 連絡事項

・各分掌主任より資料のとおり説明

ア 令和７年度年間行事予定について（教務）

会長：夏休みの前後にそれぞれ学校運営協議会が予定されているが、何か意図があるのか？

副校長：第２回を創作授業、第３回を避難訓練の見学参加に充てさせていただいている。

委員：昨年の学校評議員会では授業見学があったが今回はどうなのか？

教務主任：今回は授業相互見学研修期間が設定してあるのでそちらでお願いしたい。

イ 学校概要および学習指導について（教務）

・質問、意見等特になし

ウ 生徒指導について（生徒指導）

・質問、意見等特になし

エ 進路指導について（進路指導）

・質問、意見等特になし

オ 教育相談について（保健相談）

・質問、意見等特になし

カ 生徒会活動について（生徒会）

・質問、意見等特になし

キ 通級による指導について（通級）

・質問、意見等特になし

ク その他

副校長：配付したクリアファイルのデザインについて、全校生徒、教職員投票のもと生徒図案作成の本校マスコットキャラクター「ひば吉」を紹介。また、守秘義務から生徒の写真撮影、録音等はご遠慮いただきたいことと、事務局での撮影、録音等は記録・HP 掲載用である旨を周知。

⑨ 意見交換

会長：会議全般を受けましてご意見等があればお願いしたい。

委員：授業参観は各自で自由に参観させていただきたいがいかがか？

会長：学校に一考いただければと思う。

委員：感想になるが、本校の存在により救われている生徒が多いように思う。やり直しができる学校を意識しスクールミッションや重点課題など随所に見ることができる。自分らしく自立することについて、ある方は依存先をたくさん持っている人が自立できることと捉えたりしている。本校の先生達は非常に温かく生徒と関わっており、困っているときに「頼っていいんですよ」という安心感がある。子供も大人も失敗しても大丈夫だという安心感や雰囲気を本校は創り出しているようにいつも感じる。話題に上がったＳＮＳや闇バイトに関しても、目先のことにとらわれずその先のことについての想像力が必要であり、規範意識についても法律で決められているから、罰則があるからではなく人として人の気持ちに思いを馳せる想像力のようなものが大切であり子供達にも持ってほしい。そのためには自分が大事にされているという感覚が必要である。昨年の卒業生から先生達が自分のことを大切にしてくれたという生徒の声を聞いた。自分のことを大切にしてくれることを実感として持てることが、本校の学校教育や重点項目に入っていることにいつも希望を感じている。

委員：商工会議所青年部は２０代から５０代の１００名ほどの会員で構成されており、１００の企業があるので、進路指導、就労指導、就業体験等で協力できるため是非使っていただきたい。また、保健相談部でLGBTQの話があったがそれについても協力できる部分はある。

会長：初回ではあったが皆様の闊達なご意見で大変有意義な会になったと思う。

⑩　閉会の言葉（司会）

以上